

白石市ごみ収集日カレンダー (平成25年10月～平成26年1月分)

収集曜日が固定され、祝日も回収！ ごみの分け方などの詳細は、「ごみの分け方と出し方平成23年度～」をご覧ください。

平成25年10月 ※ごみ出しのルール：①正しい袋に ②正しく分別 ③当日に、朝8時30分まで							
地区名 ごみ区分	越 河 斎 川 大 平	大鷹沢 白 川 小下倉	大鷹沢田中	福 岡 小 原	市街東北本線 東 側	鷹 巣	市街東北本線 西 側
収集曜日	火	月	金	木	金	月	水
ペットボトル (第1曜日)	1日	7日	4日	3日	4日	7日	2日
びん類 (第2・第5曜日)	8日 29日	14日	11日	10日 31日	11日	14日	9日 30日
缶 (第3・第5曜日)	15日 29日	21日	18日	17日 31日	18日	21日	16日 30日
その他のプラスチック (第3曜日)	15日	21日	18日	17日	18日	21日	16日
もやせないごみ (第4曜日)	22日	28日	25日	24日	25日	28日	23日
紙類・容器包装 プラスチック	1・8・15 22・29	7・14・21・28	4・11・18・25	3・10・17 24・31	4・11・18・25	7・14・21・28	2・9・16 23・30
もやせるごみ	火・金 1・4・8・11・15 18・22・25・29	月・木 3・7・10・14・17・21・24・28・31	月・水・木 2・3・7・9・10・14・16・17 21・23・24・28・30・31	火・水・金 1・2・4・8・9・11 15・16・18・22 23・25・29・30			

平成25年11月 ※粗大ごみは集積所に出せません。自分で施設へ持ち込むか、収集許可業者にご相談ください。							
地区名 ごみ区分	越 河 斎 川 大 平	大鷹沢 白 川 小下倉	大鷹沢田中	福 岡 小 原	市街東北本線 東 側	鷹 巣	市街東北本線 西 側
収集曜日	火	月	金	木	金	月	水
ペットボトル (第1曜日)	5日	4日	1日	7日	1日	4日	6日
びん類 (第2・第5曜日)	12日	11日	8日 29日	14日	8日 29日	11日	13日
缶 (第3・第5曜日)	19日	18日	15日 29日	21日	15日 29日	18日	20日
その他のプラスチック (第3曜日)	19日	18日	15日	21日	15日	18日	20日
もやせないごみ (第4曜日)	26日	25日	22日	28日	22日	25日	27日
紙類・容器包装 プラスチック	5・12・19・26	4・11・18・25	1・8・15 22・29	7・14・21・28	1・8・15 22・29	4・11・18・25	6・13・20・27
もやせるごみ	火・金 1・5・8・12・15 19・22・26・29	月・木 4・7・11・14・18・21・25・28	月・水・木 4・6・7・11・13・14・18・20 21・25・27・28	火・水・金 1・5・6・8・12 13・15・19・20 22・26・27・29			

※不忘・川原子地区のもやせるごみは、毎週水曜日に収集します。

○ごみは、必ず当日の午前8時30分までに収集所に出してください。

○「もやせるごみ」と「もやせないごみ」の袋は、中身がどちらかわかるよう袋の表に印を付けて出してください。

※ごみ収集日カレンダーは、目立つところに張ってご利用ください。

応募方法

1人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0292 白石市大手町1-1 白石市総務課へ。はがき一枚に短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)



市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

隠れんぼの胡瓜ふとつちよ朝摘みはどなた似
ならん家族笑わす 佐藤 啓子
母の形見箱鳴すしがしき袋帯一重に仕立て姉と
分け合う 斎藤 典子
はじめての嬰児を背に芽の輪を抜けし夏越も
遠き思い出 高子うみん
余命宣告夫婦いずれも受けたれど励まし合っ
て日を生き居り 大野 一休
霊山に観光客は見当たらず除染作業の人ばか
りなる 菅野ちさよ
鎌先の湯に入らんと行きゆけば震災の崖に白
百合の咲く 別当内信夫
久びきに我が家に帰れば手入れされ庭の花は
おはようさんカサブランカの花のふちかわい
いお客赤子の蛙 鎌田ねい子
蝉時雨しき降る狭きくるま路歩みのほりて知
人を訪ぬ 末吉アツ子
裏山の静けさ破り囀るは何鳥なるか耳に残り
ぬ 荒木喜代子

俳壇

山家 弘子 選

【評】一首目、出だしのユーモラスな表現が効
果的。明るいご家族の様子が写っている。
二首目、「絹鳴」は絹布の立てる特有の音だ。
使う度、見る度、それぞれの心に母上が蘇
ることになる。
三首目、一、二句に若やぐ往時の作者の姿
が偲ばれる。

終章の声たからかに秋の蝉
渺茫と忿怒のごとく土用波
夏空へ餌つけの雀飛び立ちぬ
青田海鷲の頭の点と
秋の浜あまたの霊に手を合わす
歌声の賑やかなりしキャンプ場

岩松 隆志
服部 忠孝
青木 重美
末吉アツ子
制野 リエ
和田 游稀

柳壇

四電 英夫 選

【評】一句目、命には限りがある。賑やかに鳴
いていた蝉も秋になると日毎に減っていく。
限りある命を惜しむかのように懸命に鳴いて
いる姿に感動したのである。
二句目、夏の土用中の波のことを土用波と
いう。太平洋を望む岸壁に立って海原を眺め
ていると土用波が怒り狂うがごとく荒れに荒
れて恐くなったのであろう。
三句目、子雀が誤って巢から落ちて鳴いて
いる。哀れに思い必死に育てたのであろう。
愛情がうつつて手放すことが出来ずに居た
が、やはり自然に返すことが一番と意を決し
て籠から出してやると、元氣よく飛び去って
いった。安堵と寂しさが描けた。

天変地異いつまで続く想定外
草取りに朝の空気を独り占め 阿部はぎの
午前四時蝉の時雨に目覚めけり 末吉アツ子
挙げた手の低さに本音見えて 佐藤 孝子
スパー増え便利で財布の紐緩み 草野 清
川柳を一途にひねる熱帯夜 大庭美智子
元氣さに花まるもらい胸そらす 斎藤 典子
便り絶え会いたい人に夢で会い 阿部みさ子
子燕にえさを必死に低飛行 青木 重美
まだ死ねぬ書道大学二年生 村上 照夫
高子うみん

「登別市」

登別市は、北海道の南西部、支笏洞爺
国立公園の中心に位置し、登別温泉やカ
ルス温泉を抱え、三大テーマパーク「の
ほりべつクマ牧場」「登別マリンパーク
ニクス」「登別伊達時代村」を有する観
光都市です。本年はこの登別市と本市が
姉妹都市締結をして、30周年を迎えるこ
とができました。

時は明治2年旧白石城第11代当主片倉
小十郎邦憲公が幌別郡(現登別市)を支
配地として拝領した時からの、長い歴史
的ゆかりに基づくのが登別市との縁。時
は流れ、両市の繁栄と発展を求め、昭和
57年5月に白石青年会議所が登別市を訪
問し、登別青年会議所と姉妹青年会議所
の盟約を結び、両市のつながりを一層深
める礎を築きました。

翌年の10月、
登別市と白石市が
姉妹都市盟約を本
市において調印し
ました。

以来、小学生による豆記者交流事業な
どを始め、少年スポーツ交流や物産交流、
市民団による訪問事業など、文化・教育・
産業の各方面で、多くの市民による交流
が活発に行われ、いまでも深い友情の絆
で結ばれています。

8月25日には、「姉妹都市提携30周年
記念式典及び祝賀会」が登別温泉のホテ
ルを会場に開催され、市民団40人とも
に参加しました。登別文化協会による祝
舞(江差追分)では、最後に歌詞を忘れ
たふりをして、隣の尺八演奏者に歌詞を
尋ね、場を和ませるとともに、いくつ演目も
あり、おかげで参加者は、式典の堅苦し
さから解放され、とても和やかに立食パ
ーティーを楽しんでいました。また、こ
の会場には、多くの海老名市民団や札幌

白石区民団の方々も参加され、トライア
ングル・プラスチックで、交流を楽しんで
いました。

さらに当日は、登別の夏の風物詩「第
50回登別地獄まつり」の3日目。まつり
のフィナーレの「鬼おどり大群舞」への
参加も予定されていました。小笠原登別
市長が式典で、参加者に直々に踊りを指
導。「ゆげ〜ゆげ〜 ゆげ〜ゆげ〜 ゆげ〜
ゆげ〜ゆげ〜 はらって はらって、おに!
おに! おに! おに! トットンがと
ん〜ん」の声に合わせて、みんな踊りを
練習しました。繰り返しの踊りで、初め
て踊りを踊る人でも簡単に覚えられるの
で、みんな楽しそうに踊りを学び、「鬼
おどり大群舞」に心を躍らせて参加しま
した。

会場は温泉のメ
インスタリート。
スタートまでの
間、整列のため坂
道を何度も上がっ
たり下がったり、また、まつりが始まる
と、同じ動作の連続で体力的に大変でし
たが、だれでも参加できる楽しいまつり
だと実感しました。これぞ私は、海老名
市民祭の「炭坑節」、札幌白石区の「白
石音頭」、今回の「鬼おどり」と、姉妹
都市・友好都市のすべての踊りへの参加
を成し遂げることができました。

11月には本市で、登別市との姉妹都市
締結30周年式典を予定しています。市民
全体で心からのおもてなしでお迎えしま
しょう。また今月は、恒例となった「鬼
小十郎まつり」が開催されます。全国か
らたくさんのお客さまが来白されますの
で、道でお会いした時は笑顔で声を掛け、
「明るく、粹に」お客さまをお迎えし
ましょう。